



「日の丸・君が代」強制反対など掲げて開かれた「学校に自由と人権を！ 10・17集会」=17日、東京都豊島区

# 子を戦場に送らない 学校に自由と人権求め集会

「日の丸・君が代」強制反対、「子どもたちを戦場に送らない」運動を広げようと、「学校に自由と人権を！ 10・17集会」が17日、東京都内で開かれ、約260人が参加しました。

東京都教育委員会が卒業式・入学式などで「日の丸・君が代」を強制する「10・23通達」を出して12年。主催は10・23通達関連裁判訴訟団・元訴訟団など14団体でつくる同集会実行委員会です。

これまで「君が代」斉唱時の不起立・不伴奏などを理由にのべ474人もの教職員が処分されています。実行委員会を代表して、近藤徹さん（日の丸・君が代」不当処分撤回を求める被処分者の会）が「私たちの粘り強いたたかいは都教委を追い詰めています。『戦争法廃止・安倍政権退陣』の国民のたたかいと合流し、東京の学校と教育の危機的状況を打ち破ろう」とあいさつしました。

イラク支援ボランティアの高遠菜穂子さんが「イラクから見る日

本々暴力の連鎖の中で考える平和憲法」と題して講演。イラクの国内避難民などの実態や思いを伝えるとともに、「日本は『情報鎖国』を克服し、各国の置かれた背景を理解すること、『戦争しない国』から『戦争をとめる国』へ、さらに一歩先へ」と話しました。東京「君が代」裁判弁護団副団長の澤藤 弁護団副団長の澤藤 統一郎弁護士が「君が代」訴訟の新しい動きと勝利への展望」と題して特別報告。同氏

は2013年12月以降、関連する裁判で都教委が敗訴し続けていることを指摘し、「都の教育はこれでいいのか」という裁判所の姿勢がみてとれる」「国に對しての敬意の表明を強制することは、立憲主義の大原則にも反している問題も訴えていきたい」と語りました。

集会ではアピールを採択。「何よりも『子どもたちを再び戦場に送らない』ために」と呼びかけました。